

④ 菅生地区

■森の特徴と地域資源

- ・ 鯉川沿いのなだらかな丘陵地には、古き良き里山の面影が残る森が広がっており、トウキヨウサンショウウオなどの希少な動植物が生息・生育している。
- ・ 正勝神社、組立舞台などの歴史・文化資源がある。
- ・ 周囲の尾根に沿って地区を回遊できる地形となっている。
- ・ 町内会など地域との協働により、菅生若宮子ども体験の森などを活用した新たな人と森のかかわりを築きつつある。

■森づくりの課題

- ・ 多様な自然環境を有する里山風景を次世代に引き継ぐため、時代に即した里山の利活用と再生に向けた取組を進めることが必要
- ・ 案内標識を充実させるなど、楽しみながら安心して歩ける散策路の整備が必要

●地区の現況



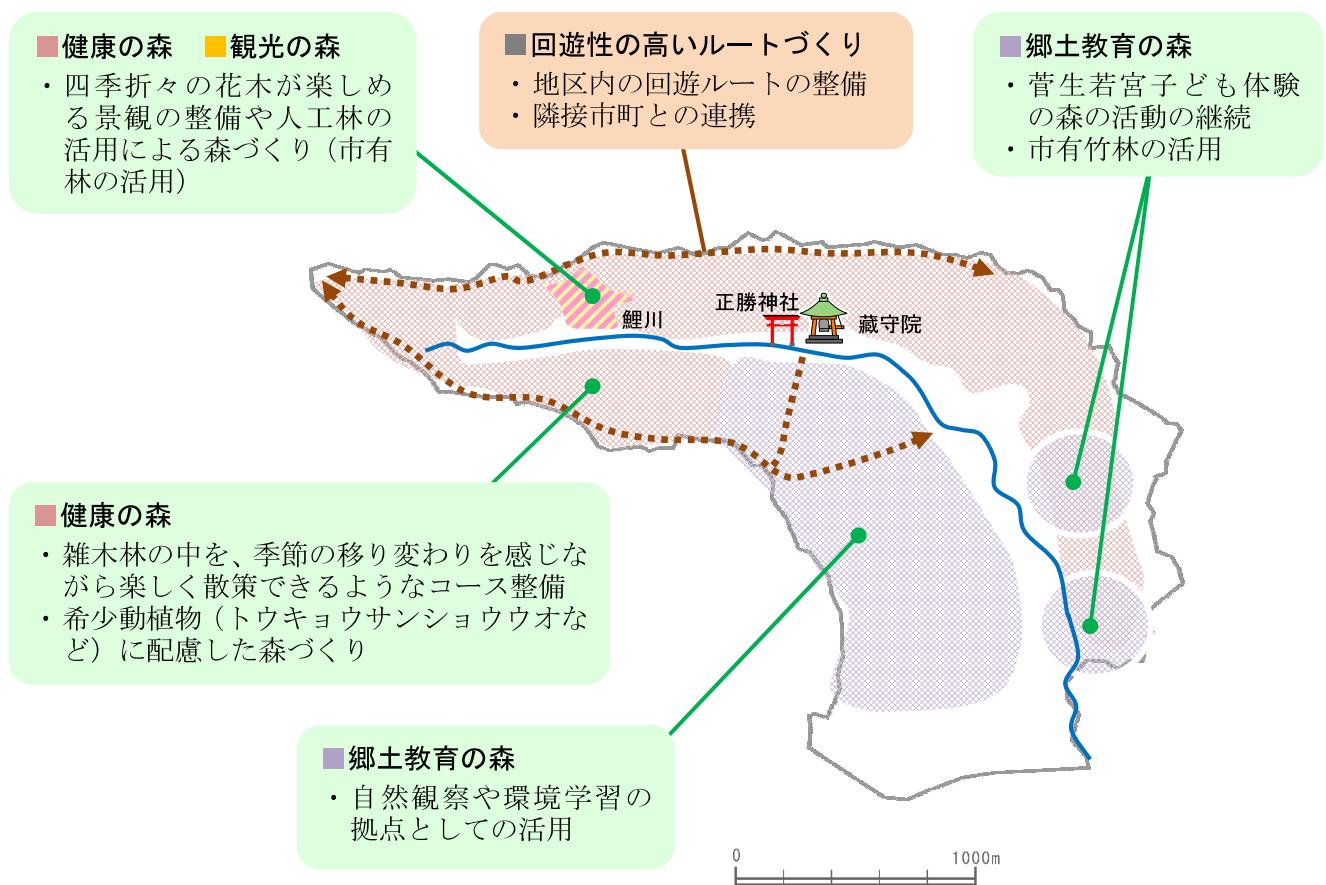
■森づくりの方針

森の維持管理への地域住民をはじめとする人々の参加、遊びや体験、学習活動を通じた森とのふれあいを高めるとともに、魅力ある地域づくりのための景観を整備するなど、新たな人と森とのかかわりを創出しながら、森づくりを進めます。

地区の外周など、気軽にハイキングや散策を楽しむことができるようみちを整備し、健康づくりに活用するなど、多様な森の魅力を高めます。

- 里山体験や自然観察などの活動拠点となる森づくり
- 地域住民を中心に様々な主体との連携による森づくり
- 地域の創意工夫を活かした景観整備などの森づくり

●地区の将来イメージ



⑤ 草花丘陵

■森の特徴と地域資源

- ・ 大澄山から浅間岳に至る丘陵地（都立羽村草花丘陵自然公園）に位置し、一帯に広がる雑木林が市民の憩いの場となっている。
- ・ 歩きやすいみちのハイキングコースが設定されており、隣接市との連続性がある。
- ・ 大澄山の周辺には、慈勝寺をはじめ、寺社が点在している。

■森づくりの課題

- ・ 大澄山などからの眺望を確保し、森の魅力を高めることが必要
- ・ 森への親しみを高めるため、休憩所（ベンチ）などの整備や周辺の観光資源の活用が必要

●地区の現況



大澄山の休憩所（東屋）



大澄山に続く散策路



慈勝寺

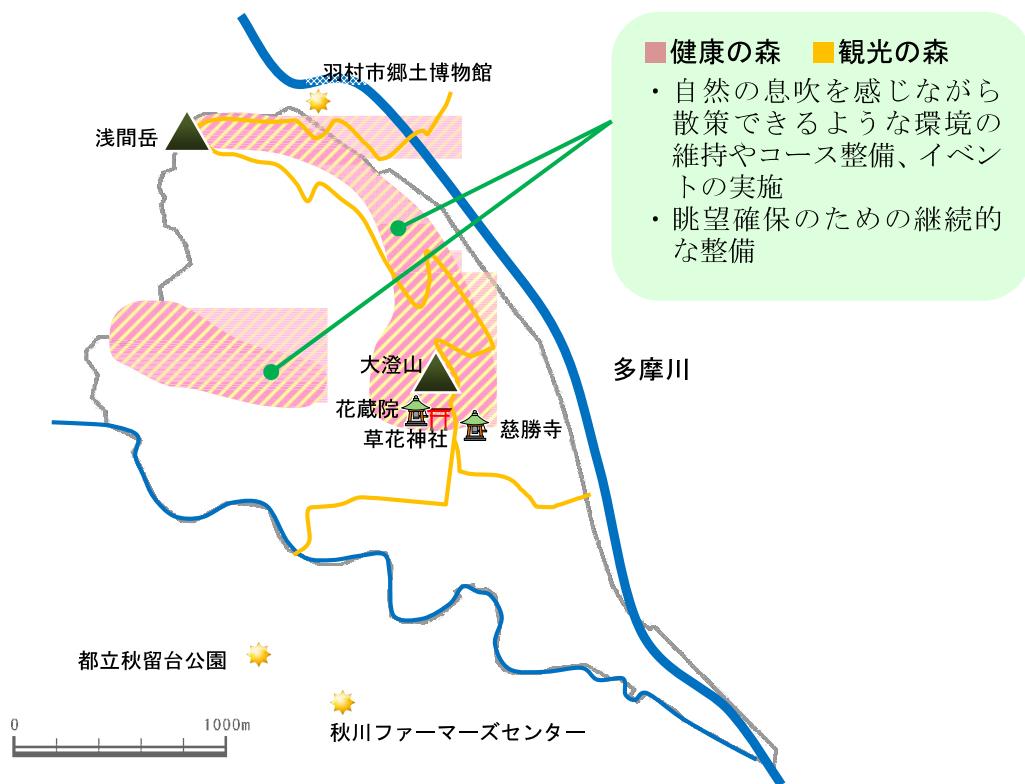
■森づくりの方針

大澄山や浅間岳を中心に、郷土の自然と文化を満喫しながら散策できる森づくりを進めます。

一帯に点在する寺社をはじめ、隣接市も含めた地域資源（観光）との連続性も視野に入れ、森の魅力を高めます。

- 大澄山などからの眺望の確保
- 散策を楽しめるような設備などの整備
- 市内外の周辺地域資源との連携による森の魅力の向上

●地区の将来イメージ



[コラム]慈勝寺の2本の巨木～モッコクとタブノキ～

慈勝寺には、モッコクとタブノキという2本の巨木があります。モッコクは東京都の天然記念物、タブノキはあきる野市の天然記念物に指定されています。モッコクは、目通り幹囲 2.25m、樹高 22.5m にもなります。この地方の名木で、江戸五木（江戸時代に江戸でよく使われた造園木）のひとつです。タブノキは日本の代表的な常緑広葉樹です。温暖な沿海地に多く自生し、ナンジャモンジャとも呼ばれます。



モッコク タブノキ

⑥ 秋川・滝山丘陵

■森の特徴と地域資源

- 秋川沿いに緩やかに伸びる丘陵地(都立秋川丘陵自然公園・都立滝山丘陵自然公園)に沿って森が広がっている。
- 弁天山や網代城山^{※13}、棚田、竹林、寺院、神社、カタクリ、アジサイ、サクラなどの資源が豊富である。また、周辺に市内最大の観光施設がある。
- 散策路は歩きやすく、市街地や丘陵を見渡せる眺望、四季折々の風景を楽しむことができる。

■森づくりの課題

- 散策路における休憩場所の整備など、楽しみながら歩ける工夫が必要
- 都立小峰公園をはじめとし、森の魅力を高める様々な主体との連携が必要



※13 網代城山

正式名称は「城山（じょうやま）」だが、戸倉地区の城山（しろやま）と区別するため、ここでは「網代城山」とする。

■森づくりの方針

秋川に沿ったゆるやかな丘陵地の広がり、弁天山、網代城山、都立小峰公園、カタクリ群生地や棚田の風景などの見どころ、広徳寺や周辺の寺社、地域に伝わる物語の魅力などを活かし、楽しく散策できる森づくりを進めます。

- 様々な表情を見せてくれる雑木林などの活用
- 周辺の観光施設との連携も視野に入れた、健康づくりや自然学習、レクリエーション、歴史探訪など、様々な活用ができる散策路の整備

●地区の将来イメージ

